

標準委員会 第45回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日時 2019年11月1日（金） 13:30～14:55

2. 場所 5東洋海事ビル A+B会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）萩原部会長，石川副部会長，湊幹事，石川（審議案件の後退席），北島，坂本，佐田，田中（正），野依，日比，藤井，松本，宮坂，山路，山本，吉田（16名）

（代理委員）竹腰 直樹（東京電力ホールディングス／増田代理）（1名）

（欠席委員）田中（健），張（2名）

（オブザーバ）山岡（廃止措置分科会常時参加者）（1名）

（説明者）【廃止措置分科会】湊常時参加者，【基本戦略タスク】河井幹事（延べ2名）

（事務局）田老，谷井，牧野（3名）

4. 配付資料

ATC45-0 第45回基盤応用・廃炉技術専門部会議事次第（案）

ATC45-1 第44回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録（案）

ATC45-2 人事について

ATC45-3 廃止措置計画立案に係る標準の整備・拡充（廃止措置作業立案ガイドライン標準の策定着手について）

ATC45-4-1 学協会規格高度化WG報告書（案）が挙げる論点への対応について

ATC45-4-2 学協会規格高度化WG報告書の概要 協議会報告 R1.9 R1

ATC45-5 分科会活動状況

参考資料

ATC45-参考1 基盤応用・廃炉技術専門部会委員名簿

ATC45-参考2 基盤応用・廃炉技術専門部会出席実績

ATC45-参考3 原子力学会標準の幅広い利用に向けて（依頼）

5. 議事内容

事務局から開始時点で委員19名中，17名の出席があり，委員会成立に必要な委員数（13名以上）を満足している旨，報告があった。

（1）前回議事録の確認（ATC45-1）

前回議事録（案）について配付された内容で承認された。

（2）人事について（ATC45-2）

事務局からATC45-2に基づき，専門部会の人事について下記の提案があり，審議の結果，専門部会委員の再任が決議された。

【専門部会】

1. 決議事項

（1）委員再任

田中 正暁

日本原子力研究開発機構

2020.03～2022.02

【分科会】

なし

(3) 報告・審議

1) 【審議】 (ATC45-3)

“実用発電用原子力施設の廃止措置作業立案ガイドライン”の新規策定着手について
(担当：廃止措置分科会 湊常時参加者)

廃止措置分科会 湊常時参加者からATC45-3に基づき，“実用発電用原子力施設の廃止措置作業立案ガイドライン”の新規策定着手について説明があり，今回頂いたコメントを反映し，分科会で審議し，再度，当専門部会に報告することになった。

主な質疑は以下。

Q：本ガイドラインの目的・役割は何か。廃止措置標準体系のインターフェイスとなるものか。記載が重複する懸念がある。

A：詳細は個別の標準にあるが，そのつながりを示すものとなる。

C：説明資料としてブラッシュアップすること。

C：現在まだ標準委員会審議案件でないため，分科会で検討着手する。

2) 【報告・審議】 (ATC45-4-1, ATC45-4-2)

基本戦略タスクからの依頼 “学協会規格高度化WG 報告書（案）が挙げる論点への対応について”について

(担当：基本戦略タスク 河井幹事)

基本戦略タスク 河井幹事からATC45-4-1, ATC45-4-2に基づき，“基本戦略タスクからの協力依頼文 “学協会規格高度化WG 報告書（案）が挙げる論点への対応について”（案）について説明があり，委員からのコメントを依頼した。また，9月4日開催した標準委員会の資料を用いて，同依頼文が引用する学協会規格高度化WG 報告書（案）の概要説明があった。

主な質疑は以下。

Q：良いことが書いてあるようなので本文を読みたい。

A：依頼状に添付して送付する。

Q：廃止措置はIAEA標準に沿ってgraded approachを導入する予定なので対応できる。

C：廃止措置分科会を中心に検討する。

3) 【報告】

分科会の活動状況について (ATC45-5)

各分科会の代表者から ATC45-5 に基づき，分科会の活動状況について報告があった。

(担当：放射線遮蔽分科会：坂本主査，シミュレーションの信頼性分科会：田中幹事，放出源の有効高さ評価分科会：藤井幹事)

“放射線遮蔽分科会”

- ・坂本主査より遮蔽材料標準作業会の活動状況，並びに放射線工学部会との共催による“放射線遮蔽設計法に係るワークショップ”第2回開催実績及び第3回の開催準備状況の報告があった。

主な質疑は以下。

C：萩原部会長より，部会等との技術的情報交換及び原子力学会等での口頭発表とともに，査読付き論文で成果の発表が要請された。

C： γ 線ビルドアップ係数の英語標準作成の遅れは，分科会の事情である。

“廃止措置分科会”

- ・萩原部会長より、9月4日開催した標準委員会で報告した、“原子力施設の廃止措置の基本安全原則”の制定の審議状況及び“実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX”の改訂の2件の標準委員会での意見募集では、多くのコメントが上がっているため、分科会で速やかに対応するよう依頼があった。

“シミュレーションの信頼性分科会”

- ・資料に基づき、NURETH-18にて原子力学会ガイドラインに関する概要を報告するとともに、2019年原子力学会秋の大会にて計算科学技術部会企画セッション「不確かさの有効活用によるシミュレーションの信頼性確保」を実施し、シミュレーションの信頼性分科会、放出源の有効高さ評価分科会、統計的安全評価手法標準分科会から講演を頂いた旨、報告があった。

“放出源の有効高さ評価分科会”

- ・数値モデル実施基準の改正に向けた分科会活動の再開準備を行っている。

主な質疑は以下。

Q：主査の任命など人事手続きをおこなうこと。（萩原部会長）

A：拝承。

4) 【その他】（ATC45-参考3）

事務局からATC45-参考3に基づき、原子力学会標準の幅広い利用に向けてのお願いがあった。

6. 今後の予定

次回は、2020年1月28日（火）13時30分から予定。

以 上